



二月 (平) 如月 牛宿

二月四日立春の節より
月命主寅二黒土星の月
暗剣殺西南方

旧正月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	火	きのとり	四緑	●朔一四時四十分、旧元日、島根出雲大社福神祭、福井永平寺涅槃会撰心(7日迄) 旧玉皇正月大	朔	先勝	なる	背	万よし	6.41	17.08	6.54	16.58
2日	水	ひのえいぬ	五黄	尾鷲まつり(1日〜5日)	二	友引	おさん	参	五む日	6.41	17.09	7.38	18.11
3日	木	ひのと	六白	節分、豆まき、奈良春日大社万灯籠、不成就日	三	先負	ひらく	井	太みょう	6.40	17.10	8.13	18.11
4日	金	つちのえね	七赤	立春五時五十分	四	佛滅	ひらく	鬼	母倉	6.39	17.11	8.44	19.21
5日	土	つちのとし	八白	一粒万倍日	五	大安	とづ	柳	きこ	6.38	17.12	9.12	20.27
6日	日	かえとら	九紫	新宮神倉神社火祭	六	赤口	たつ	星	ぶく日	6.37	17.13	9.39	21.30
7日	月	かのと	一白	旧七草、北方領土の日、松山椿祭(9日迄)、水沢黒石寺蘇民祭	七	先勝	のぞく	張	くゑ日	6.36	17.14	10.05	23.30
8日	火	みづのえたつ	二黒	●上弦二二時五〇分、こと始め、針供養	八	友引	みつ	翼	大みょう	6.35	17.15	10.33	—
9日	水	みづのと	三碧	天一天上	九	先負	たいら	軫	ぢう日	6.34	17.16	11.03	0.29
10日	木	きのえうま	四緑	初午、京都伏見稲荷初午祭、笠間稲荷初午祭、加賀菅生石部祭、福島信夫三山眺参り	十	佛滅	さだん	角	神よし	6.33	17.17	11.37	1.28
11日	金	きのとひつじ	五黄	●建国記念の日、奈良極原神宮例祭、不成就日	十一	大安	とる	亢	大みょう	6.32	17.18	12.16	2.26
12日	土	ひのえさる	六白	水戸梅まつり(3月20日迄)	十二	赤口	やぶる	氐	月とく	6.31	17.19	13.01	3.23
13日	日	ひのと	七赤	聖バレンタインデー、奈良長谷寺だだ押し	十三	先勝	あやぶ	房	十し	6.30	17.20	13.52	4.15
14日	月	つちのえいぬ	八白		十四	友引	なる	心	●	6.29	17.21	14.49	5.03

暦日上、二月初頭には「立春」という春めいた節日、設けられているが、気候的に、雪または冷雨の日が多く、まだまだ寒波、寒風の荒れ狂うときである。
【冠】とくにこの頃に入れることでもないが、「立春」は陰暦の正月で、太陰太陽暦を使用する東洋の占いの新年の起点とされている。したがって表紙裏の年齢早見表にも説明があるように、立春前日の節分まで、前年の生まれ年になる。この月は一カ月最少日の特異月で、しかもほぼ四年一回閏日がある。
【婿】婚礼に直接関係ないが、十四日は「聖バレンタインデー」とい、欧米ではこの日、女性から男性にプロポーズをしてもいいという風習がある。
もともとバレンタヌス司教の殉教の日であるが、これにギリシャ神話の女神のロマンスが重なったものらしい。最近ではわが国でも

15日	火	つちのと	九紫	旧小正月、全国緑化キャンペーン、ねはん会、横手かまくら、三隣亡	十五	先負	おさん	尾	母倉	6.28	17.22	15.49	17.22
16日	水	かえ	ね一白	全国狩猟禁止、日蓮聖人誕生会	十六	佛滅	ひらく	箕	母倉	6.27	17.23	16.51	18.23
17日	木	かのと	二黒	○望一五時五十分、伊勢神宮祈年祭(23日迄)、アレルギイ週間(23日迄)	十七	大安	とづ	斗	月とく	6.26	17.24	17.54	19.24
18日	金	みづのえとら	三碧		十八	赤口	たつ	牛	大みょう	6.25	17.25	18.57	20.25
19日	土	みづのと	四緑	雨水一時四三分、岡山西大寺会陽裸祭、不成就日	十九	先勝	のぞく	女		6.24	17.26	19.50	21.26
20日	日	きのえたつ	五黄	旧二十日正月	廿	友引	みつ	虚	大みょう	6.23	17.27	20.43	22.27
21日	月	きのと	六白		廿一	先負	たいら	危	神よし	6.22	17.28	21.36	23.28
22日	火	ひのえうま	七赤	二の午、一粒万倍日	廿二	佛滅	さだん	室	神よし	6.21	17.29	22.29	24.29
23日	水	ひのとひつじ	八白	●天皇誕生日、京都醍醐寺五大力尊仁王会	廿三	大安	とる	壁	神よし	6.20	17.30	23.22	25.30
24日	木	つちのえさる	九紫	○下弦七時三二分、大田原大田山地蔵尊春大祭	廿四	赤口	やぶる	奎		6.19	17.31	24.15	26.31
25日	金	つちのと	一白	京都北野天満宮梅花祭	廿五	先勝	あやぶ	婁	十し	6.18	17.32	25.08	27.32
26日	土	かえいぬ	二黒	福井勝山左義長祭、良忍上人忌	廿六	友引	なる	胃	●	6.17	17.33	26.01	28.33
27日	日	かのと	三碧	三隣亡、不成就日	廿七	先負	おさん	昂	百事よし	6.16	17.34	26.54	29.34
28日	月	みづのえ	四緑	八せん始め	廿八	佛滅	ひらく	畢	天おん	6.15	17.35	27.47	30.35

※「海上保安庁図誌利用第〇三〇三二二号」
※東京・晴海の満潮・干潮の時刻は海上保安庁刊行の「令和四年潮汐表」から採用したもので、異常な気象の影響は考慮していません。
※行事・休日・祭りは変更になる場合があります。事前に関係諸団体にご確認ください。

プレゼントするならわしをまねて、女性から男性にわたすチョコレートなどが盛んに売られるようになった。
【祭】「節分」は、本来は四季の移り変わる、このこととをいうのであるが、とくに暦上の一年の最初の日の立春の前日、地方によって旧暦の大晦日(おみそか)として、それぞれ伝統ある行事が行われている。一般的には「福は内、鬼は外」と福豆(大豆の炒ったもの)をまき、この豆を一粒多く、だけ食べる厄よけがある。柊(ひいらぎ)の枝にイワシの頭をさしたり、ニンニクなど強い臭気のあるものを添え「邪気」よけを行う風習もある。福豆をまき悪鬼を払うので追儺(おにやらい)とい、古くから神社仏閣で、この儀式は年男により行われていた。十一日は「建国記念の日」として、国民の祝日になっている。
二十三日は「天皇誕生日」である。令和の年号にふさわしい天皇家のご繁栄をお祈り申し上げる。